



①レゲエをイメージしたエネルギッシュな社内
 ②難削材を中心にさまざまな金属加工を手がける
 ③自動機と汎用機を併用して加工
 ④若さあふれる長期的な成長に期待
 ⑤ベトナムにも拠点を設置

フィリール



代表
 こうの りょうた
 河野 良太 さん



難削材を中心に金属加工で「ほんまもん」を届ける

平成26年の創業以来、チタンやニッケル合金など難削材を中心とする金属加工を手がけています。社名は好きな音楽のレゲエで使われるジャマイカのバトワ語にちなんでおり、「ほんまもん(本物)」を世の中に送り出す」という技術を目指す決意を込めました。平成28年春にはベトナムに拠点を設置し、現地の日系協力会社を活用した加工も行っており、低コストの要望にも対応しています。これまで他社からの紹介案件を中心に手がけてきましたが、人員体制も整ってきたため、この春から法人化し、それを機に営業活動を本格化する予定です。

- 主な事業内容
難削材を中心とする金属部品加工
- 主な取引先(納入先)
自動車部品メーカー、工作機械部品メーカー、航空機部品メーカー、医療機器部品メーカーなど

住 所 / 〒570-0043
 大阪府守口市南寺方東通6-11-12
 TEL / 06-7493-8864
 FAX / 06-7493-8871
 創 業 / 平成26年11月
 資本金 / 500万円
 従業員 / 6名

若き社長が独自の技術力を追求する金属加工業

事業内容と沿革

難削材を中心とする金属加工で多様な業界に部品供給

「製造業で独立するのが夢だった」と語る河野良太代表は、平成26年に20代半ばにして「フィリール」を創業した。独立前に勤務していた金属加工会社での作業経験を生かし、チタンやニッケル合金など難削材を中心とする金属部品を手がける。ユーザーの業界はさまざま、自動車部品や工作機械部品などの定番の依頼に加え、航空機や医療機器など、より品質管理が求められる業界からの依頼もこなす。

多くの案件をこなすうち、高品質・高付加価値の加工を追求するだけで

なく、より低コストの加工のニーズにも応える必要があると考えようになった。平成28年春にはベトナムに拠点を設け、10社以上の日系協力工場を確保。低コスト加工への要望に対応する体制を構築した。

一方、本工場は平成28年に4名体制とし、複数の案件に対応できる。短納期や高精度が必要な小ロット加工は日本で、低コストが求められる量産加工はベトナムで分担する体制を整えた。

強み

会社員時代にノウハウを培い20代で創業

河野代表は会社員時代から周囲に将来の起業の夢を語っており、その目標に向かって必要なノウハウを日々の業務の中で蓄積してきた。加工機のチップの選択や潤滑油の選定など「難しい加工を実現するための条件の工夫をいろいろと試させてもらえる環境だった」と振り返る。自らの経験で得た難加工実現の方法が同社の財産となり、社員にも積極的に伝えている。

ベテランの技術者が多い金属加工業で、20代创业者の挑戦は目を引く。河野代表の意欲に対する周囲の評価は高く、案件の紹介は創業以来後を絶たない。会社員時代の知人やフィリール本社周辺の製造業などから顧客の紹介が次々と舞い込んでいる。「多くの応援があって軌道に乗り、営業に回る時間もないほど」と河野代表は語る。若さそのものが武器となっており、長期的な部品供給体制を求めるユーザーから熱い期待を寄せられている。

取り組み

汎用機と自動機を併用し、「本物」の加工を実現

河野代表は、好きな音楽のレゲエで使われるジャマイカのバトワ語にちなんで社名をつけた。「『ほんまもん(本物)』を世の中に送り出す」という決意が込められている。本社内も南国ムード漂うカフェを思わせる一角があり、明るいエネルギーに満ちあふれる。

同社の「ほんまもんの加工」を支えているのは、フライスと旋盤の汎用機と自動加工機を広く使いこなすノウハウ。加工手段を限定しないことで、あらゆる依頼に対応できる。自動加工機は「チップの精度が上がっているため、熱による変形を考慮しながらいかに安定させるかがポイント」と河野代表は語る。一方、低価格で加工を請け負う海外製造業との競争への危機感は強く、日本の独自技術として汎用機の技術を磨いている。さまざまな依頼を実現するために「いかに加工方法の引き出しを持っているかが重要」と河野代表は力を入れる。「一発で仕上げようと横着してはいけない」と戒める。

今後の展開

委託加工から自社加工へ、ベトナムに工場設置

社内でノウハウを共有し、ベトナムの協力工場も確保できたため、加工体制が整ったとして平成29年春をめどに法人化する。それに伴い、本格的に営業活動を開始。河野代表自ら全国の企業訪問を行う。ホームページとパンフレットも作成中で、「ベトナムで加工対応できる点を生かし、加工事例の価格も明記して特徴を出す」と河野代表は明かす。平成28年10月期の売上高4,000万円から、平成30年10月期には同1億円への成長を目指す。

短納期や高精度が必要な小ロット加工は日本で、低コストが求められる量産加工はベトナムで行う分担体制を進める。現在、ベトナムの拠点は品質管理拠点として2名体制だが、3年後をめどにベトナムで50名規模の自社工場の設置も計画している。本社でも、より高精度を実現する測定機など設備をさらに充実させ、世界との勝負に挑む。